公欠管理システム

要件定義書

履歴

バージョン	改訂内容	改訂日	改訂者
1.0	新規作成	xxxx/xx/xx	XX

公欠管理システム 要件定義書

目次

公欠管理システム 要件定義書	1
1 全体	3
1-1 システム開発の背景・趣旨	3
1-2 システムの目的	3
1-3 システムの開発範囲	3
1-4 システムの開発方針	3
2 旧業務フロー	4
3 新業務フロー	4
4 システム要件	5
4-1 機能要求	5
4-1-1 個人認証機能	5
4-1-2 公欠履歴表示機能	5
4-1-3 公欠登録機能	5
4-1-4 公欠削除機能	5
4-1-5 公欠修正機能	5
4-1-6 日別クラス別公欠一覧機能	5
4-2 機能外要求 (本演習では省略)	

1 全体

1-1 システム開発の背景・趣旨

就職活動中に会社説明会や選考会に参加するため、授業を欠席することを「公欠」といい、通常の欠課、欠席とは分けて処理をしている。

公欠をする際には事前に紙の「公欠届」の提出が必要だが、以下のような問題がある。

- ・ 学生によっては公欠届の手書きの文字が見づらく、記入ミスや記入漏れがある。 また、その記入や修正に時間がかかる。
- ・ 受験ピーク時は公欠届の提出枚数が非常に多く、担任は内容のチェックと出席名簿 への転記処理に非常に多くの時間を費やしている。

1-2 システムの目的

従来、紙で提出していた公欠届をやめ、Web 形式の提出システムとする。Web 化することで、以下のメリットがある。

- ・公欠届記入の作業が楽になる
- ・必要な情報の入力時に漏れやミスのチェックを行なうため、担任の負担が減る。
- ・日ごとの公欠情報が自動集計されるため、出席簿への転記がしやすくミスが減る

1-3 システムの開発範囲

麻生情報ビジネス専門学校 システム系の各クラスで利用するシステムとする。 学生情報はシステムとは別にデータ管理者が独自でデータベース登録する。 受験企業情報は学生が入力した情報を記録として保持することとし、企業情報の保守 管理は必要ない。

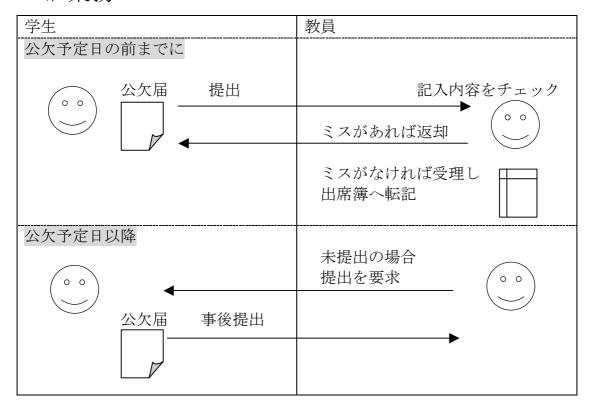
1-4 システムの開発方針

・段階的に開発を進める。

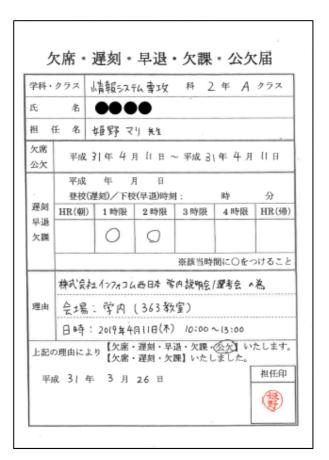
第1フェーズ 学生側機能の一部 (学生個人認証、公欠履歴表示、公欠登録) 第2フェーズ 学生側機能の一部 (公欠削除、公欠修正)の開発 第3フェーズ 教員側機能 (教員個人認証、日別公欠一覧表示)の開発

- ・JSP/Java サーブレットを使用した Web ベースのシステムとする。
- ・学生側機能はスマートフォン、教員側機能は PC のブラウザを使用する。

2旧業務フロー



現行の届出用紙



3 新業務フロー

学生			教員	システム
公欠予定日の前までに				
	公欠情報	閲覧		公欠履歴表示
0 0	公欠情報	登録		公欠登録
) 公欠情報 ———	削除		公欠削除
	公欠情報	修正		公欠修正
				•
任意の日	11に			
			出席簿へ転記するための	日別クラス別公欠一覧

※ システム機能を利用する際は、個人認証(ログイン)が必要

4 システム要件

4-1 機能要求

4-1-1 個人認証

学生は学籍番号を使用したログイン認証後に学生機能のみを利用できる。教員は教員番号を使用したログイン認証後に教員機能のみを利用できる。

4-1-2 公欠履歴表示機能

学生は自分が登録した公欠情報を表示し、閲覧できる。 公欠日の新しいものから順に表示する。

4-1-3 公欠登録機能

学生は公欠情報を入力し、登録できる。

4-1-4 公欠削除機能

学生は自分が登録した公欠情報をあとから削除できる。

4-1-5 公欠修正機能

学生は自分が登録した公欠情報をあとから修正できる。

4-1-6 クラス別公欠一覧機能

教員は任意のクラスの公欠一覧を表示できる。

公欠日の新しいものから順に表示する。同日の場合は出席番号順に表示する。

4-2 機能外要求 (本演習では省略)